

日本創生委員会 <第8回 会議骨子>

議事次第

- 2009年2月23日(月)14:00～16:00
東京会館9F ローズルーム ※出席者は別添資料:「委員名簿」ご参照
- 会長挨拶
- 新任委員挨拶
- 委員長基調スピーチ
- ゲストスピーチとフリーディスカッション 学習院大学 法学部 教授 野中 尚人 様
- 今年のテーマ・論点の件(自由討議)
- 日本の底力発揮／経済財政諮問会議への提言の件(報告)

< 会長挨拶 >

- ・ 昨年、世界で何が起きているか、日本は何をなすべきかにつき提言をいただいた。
- ・ 足元の状況から、切れ目ない、日本の将来のためになるワイドスペンディングな支出／政策が必要。
- ・ 今年も1年間、上記視点に基づくじっくりとした議論を期待する。

< 新任委員挨拶 >

- ・ 政策要望を出す部署におり、常日頃お世話になっている方が多く、今後もよろしく。

< 委員長基調スピーチ >

- ・ 昨年1年間で、中間報告をまとめ、様々なレスポンス・支援をいただいた。
- ・ 日本の経済・産業セクターとして、自分たちの進むべき方向を明確にし、実体性のあるプロジェクトエンジニアリングの流れをつくるべきだ。
- ・ 米国では「グリーンニューディール」のほか、EVの流れがあり、スマートグリッドによりモーターリゼーションを変える動きがある。
- ・ 2年目は、日本の経済・産業を突き動かす震源地になりたい。

< ゲストスピーチとフリーディスカッション >

ゲストスピーチ

- ・ 日本のガバナンス構造は、制度的に分断されている。それを自民党システムによってカバーしてきた。
その骨格は ① 自民党の衆参両院支配と ② 自民党内の派閥システム。
- ・ 自民党システムが成立した条件は、中選挙区制・高度経済成長・冷戦。特に中選挙区制により、1選挙区に複数公認候補が立ち、後押しする派閥と議員個人の後援会システムができ、競争と活力のあるボトムアップ型デモクラシーを形成した。
- ・ 一方、制度的分断は、
 - 1) 内閣による内閣委員会のルール化などのイノベーションが進まず
 - 2) 政府(与党幹部)の対国会権限は弱く(国会を媒介とした政府・与党の二元体制)
 - 3) 衆院の優越性が不明確で、両院間関係が改善されなかった。
- ・ このため、上記カバー条件の変化により、制度的分断が顕在化し、
 - A) 派閥の弱体化
 - B) 小選挙区比例代表並立制ロジックへの不適合
 - C) 頻繁化する国際会合などでのメディア不適合が生じている。

< ゲストスピーチとフリーディスカッション >

フリーディスカッション

Q : 日本のガバナンスの弱体化は、システムの構造欠陥か、そうなら選挙制度改革時に、抜本的なシステム改革をなすべきだったのか。

A : システムの構造欠陥が問題なのは間違いない。ただし、改革の順番とタイミングは難しい。

Q : 現状の議院内閣制のなかで、新たな模索をするのか。又はボスが決定する不明朗な状態に戻さなくてはいけないのか。

A : もとに戻ることは全くナンセンス。

戦後の日本の政治環境は、戦争・シビアな外交をしなくてもよくかつ方向性(モデル)もわかっていた。

しかし、現在は、トップランナーの1国として、自らのスピード感ある意思決定が必要となった。(政治と経済のスピードのミスマッチ)

Q : 自民党与党、ガバナンス崩壊後のシナリオは。

A : 自民党は、政党として国民に約束するもの、そのしくみ(ex.党大会、総裁選のやり方)をきちり決めるべき。一方、民主党は政権運営につき基本的なところを理解すべきである。

Q : 政治的劣化は、国民全体の問題である。小選挙区は、ポピュリズムに陥る不安が大きいのではないか。

しかし、過去、自社体制で対決しながら、政策が決定できたように、国会がねじれたなかでも方法を見つけだし、与野党の人材を育て、2大政党をいかに育てるかが重要。

A : ポピュリズムの原因は小選挙区制というよりもメディア政治。人材供給につき、日本は、選挙にでるためのハードルが制度的に高過ぎる。有能でヤル気のある人が出られるようにすべき。

又、政党の責務は重大であり、統治マニフェストを出し、国会の運営などいろいろな知恵を出すべきだ。

<今年のテーマ・論点の件 >

- ・ 今年、昨年1年間を経た、第2フェーズであり、日本の経済を動かす、経済・産業セクターとして、何を責任もって打出すか議論したい。

<自由討議 >

提示事例につき、とらえ方の視点を中心に各委員から以下の発言あり。

- マクロ経済(政策)
 - ・ 日本経済の刺激になること=GDP増加と雇用機会創生。
 - ・ 世界経済回復まで、将来の日本が圧倒的な力を発揮するために、足元何をなすべきか。
 - ・ 世界経済自体をどうとらえ、そのなかで、どう日本経済を動かすのか。
- 内需拡大
 - ・ 将来の需要追従でない必須・可能なプロジェクトの創生(ex.森林、電線の地中化、第二東名での新輸送システム)。
 - ・ GDPが貿易依存度60%超でかつ人口減少する中、どう需要拡大するかなど誰でも持つ素朴な疑問・その解決を提示。
- 一次産業
 -
- 統治システム
 - ・ 世界中から投資・人がくる、国際社会からみて適正なレギュレーションとは。
- 科学技術
 - ・ 我が国の強み(ex.環境技術)を活かす提言を。
- 教育
 - ・ 子供の理科離れなど百年の計(ex.興味誘発)を議論したい。
- 地域創生
 - ・ 豊かな地方に多くの人々が住めるシステム環境づくり(ex.住宅ローン)と国土全体を有効に使う施策。

- 将来に向けた国家像
 - ・ 日本の将来像／経済をかたちどる基本的な問題（ex.人口問題）の議論。
 - ・ 内向き志向からの脱却（ex.日本版改革開放）。
 - ・ 社会制度ではない物理的（ex.人口・資源・食糧）なあり方を考える。
 - ・ 長所を最大限使って、世界から魅力ある国家・地域にする、夢のある議論。
 - ・ 超長期的視点から日本の将来を考える（ex.人口問題、少子高齢化、日本の魅力）。
- その他
 - ・ 12月末に、どこにどう提言するか、12月の時点での日本の状況・政局を想定すべし。

< 日本の底力発揮／経済財政諮問会議への提言の件(報告)>

平成21年1月27日、経済財政諮問会議／民間4人委員会への提言を報告

< 事務局報告 >

- ① 本日の議論などをベースにテーマを整理し、年7～8回、開催したい。
- ② 2月23日(月)発売の月刊「フォーブス」掲載の寺島委員長・三村会長の対談記事をご参照に。

今後の予定：開催案内は、後日別途送付いたします。

第9回「日本創生委員会」

- 平成21年4月14日(火)11:30～13:30
- (現) 経団連会館 12階／ダイヤモンドルーム

第10回「日本創生委員会」

- 平成21年6月2日(火)11:30～13:30
- (新) 経団連会館 2階／国際会議場 (ゴールドンルーム)

※(新)経団連会館は、5月11日からオープン